

○ 暮市 くれいち いちのまち つめいち いちおい

南地区（旧木戸村）は **26** 日、下小埜町通り、北地区（旧竜田村）**25** 日井出町通りに出店が並び賑やかに開かれ、お歳暮、お年始用品や正月用品、日用品、越冬の衣類、農具などを購入した。特に南地区の暮市は江戸時代からの古い歴史がある。（廃絶）

○ 餅つき **28** 日（**25** 日頃から搗く家もあった）

正月に供える餅、食べる餅、お年始に贈る餅を搗く日である。前に作っておいた餅米、粉（餅とり粉または粉餅をつくる）をふかし、臼に入れ杵で搗いて餅をつくり重ね餅（丸く大きい餅）、ふくで餅（丸く小さい餅）にした。餅つきの日は早朝から搗き始め午前中いっぱいかかる。餅の量は家庭によって異なるが **2** 斗（**30** キロ）が普通で **4** 斗（**60** キロ）も搗く家もあった。

炊き木は節木を用いる。**29** 日の餅搗きは苦の餅とって忌む。

○ お正月さま迎えと正月飾り

餅搗きが終ると主人か長男はお正月の迎えに山に行き、松飾りの材料になる松、榊、はなの木を採取する。松の切り株には持参した餅かおさご（米）を供え、松などを背負って帰る。家では縁側（廊下）か座敷に立てておく。

メづくりはこの日の夕方から **29** 日にかけて作る。メ飾りのわらは今年とれたわらを使う。わらは水にしめしておき、メ縄、おたが（たが正月ともいう、縄の輪）、こぼう縄、宝船などを作り榊・松・ご幣紙を付ける。

お飾りは先にお受けしてある皇太神宮・お正月さま（歳徳神）・お窯さま（火の神）のお礼（南地区大谷も含むでは木戸八幡神社、北地区では竜田神社）を神棚にお祭りする。（神棚とは別に正月棚をつくる家庭もある）

神棚にはふくで餅 **2** つとみかんを重ねて大神宮、歳徳神、お窯さまのお札の前に供え、大神宮には宝船、歳徳神、お窯さまにはおたがを飾る。

床の間には鏡餅を供え、みかん、干柿、昆布などの縁起物を添える。玄関や部屋毎の出入口にはメ縄を張る。氏神さま、台所、風呂場にも供える。台所には若水（正月の行事に使う水）の手桶と柄杓（毎年新しいもの）を備えておく。柄杓には餅を紙に包み水引きで結ぶ。

屋外には門松飾りのほか、井戸・川・棟のある建物の出入口、種蒔俵におたがを飾る。（**31** 日の飾りは忌む）